

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902500	事業の開始年月日	平成18年4月1日
		指定年月日	平成29年11月7日
法人名	株式会社スマイル		
事業所名	スマイル住まいの横須賀大矢部		
所在地	(238-0024) 神奈川県横須賀市大矢部3-18-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成30年2月23日	評価結果 市町村受理日	平成30年6月26日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なじみの関係を大切にし永く勤めているスタッフも居ます。ご家族が面会に来た際には近況を報告するようにしています。近所にスーパーがあり、毎日のように買い物に行きメニューも毎日考えその季節の食材も献立に取り組んだりしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成30年3月28日	評価機関 評価決定日	平成30年6月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行北久里浜駅から団地循環のバスで、「佐原橋」下車、徒歩約5分ほどの静かな住宅街にあります。近くには散歩に最適な公園や川に沿った桜並木があります。建物は中庭が整備されていて、陽当たりの良い明るい回廊式の廊下にソファをセットし、好きな場所で日向ぼっこや寛ぐことができます。

<優れている点>

勤務年数の長い職員が多く、入居者は馴染みの関係や信頼感の中で安心して落ち着いた環境で生活しています。個人の身体状態に合わせた生活リハビリを大切に、入居者一人ひとりの意向を尊重し、毎日の生活の中でそれぞれの能力を生かした役割を担い、出来ることを見出し自立支援に取り組んでいます。野菜の皮むきや配膳、食器洗い、片づけ、掃除など家庭的な雰囲気でも過ごせるように支援しています。食材の買い出しやおやつを買いに出掛けたり、ホームの畑や花壇で野菜の収穫や水なやりなど、本人の意向や状態に合わせ職員と一緒にしています。

<工夫点>

事業所理念に「お客様(入居者)が居心地の良い生活が送れるように支援します。」と掲げ業務日誌に印刷しています。理念は5項目あり職員は日々、日誌と向き合い、確認し実践に繋げています。また、職員は「スマイルの誓い」を掲げ、礼儀正しく敬いの心を育て、ケアサービスを「かたち」に示せるよう取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	スマイル住まいる横須賀大矢部
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は職員と一緒に考えたものが掲げられている。理念についての話し合いの場を作っていくようにする。	企業理念及び行動規範を事務所に掲げ職員は毎日朝礼で唱和しています。事業所理念は職員が話し合い、3年前に見直し作成しています。理念は業務日誌に印刷し、「居心地よく安らげる生活」の実践に努めています。時間の経過もあり再度見直しを検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の小学校の運動会や卒業式に招待して頂き交流を図っています。昨年より町内会に加入しましたが町内の行事に参加実績がないので今後職員が参加していけるよう取り組みを行うようにする。	町内会に加入し、地域の小学校から毎年運動会や卒業式の招待を受け、参加しています。また市内の中学校より福祉体験学習の生徒を受け入れ、触れ合いの機会を持っています。将棋を指しに地域ボランティアの人が月2回来所してくれ、入居者は楽しみにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今後の課題として運営推進会議の場を活用していきたいと思えます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	前年度よりかは行えているがご家族への参加を募りご家族の声も聞き事業所を運営していきたいと思えます。	会議は今年度6回開催し、入居者家族、民生委員、市福祉部職員（年1回）、事業所から管理者・職員が参加しています。事業所の行事や活動状況について（避難訓練の実施状況、課題、今後の取り組み）報告し、感想や意見交換をしています。	運営推進会議の目的を明確にして、地域包括支援センター職員、町内会代表に会議への協力をしてもらえるよう、日程調整の工夫や開催案内の連絡、声掛けを継続することが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	相談ごとが有った場合は横須賀市の介護保険課の担当者に報告や相談を行っています。	横須賀市福祉部介護保険課、指導監査課などには、運営や業務上の質問、家族からの相談ごと、事故報告書提出の際など、電話で相談したり助言を仰いでいます。横須賀市グループホーム連絡協議会に加入し、研修会やセミナーに参加して情報収集に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる行為についてカンファレンスなどで話し合いをしている。	運営規定、重要事項説明書に身体拘束は行わないことを明記し、緊急やむを得ず身体拘束を行なう場合の手順などは契約時に説明しています。職員は新任研修や本部研修で身体拘束禁止について学び理解しています。身体拘束マニュアルが整備され、月1回話し合いをしています。玄関は日中施錠していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	市が行う虐待防止の研修に参加をして行きます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度の理解については研修に参加し職員と学ぶ機会を作っていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項説明書等により御入居に関しての説明を行い、最後に何か質問等は無いか伺うようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に管理者やスタッフから近況を報告したりコミュニケーションを図り話を聞く機会を設けています。	家族の面会時や、行事の際には職員が声をかけ、近況報告や意見、要望を聞くようにしています。電話や手紙で連絡し、入居者、家族とのコミュニケーションを大切に、話しやすい雰囲気作りを心がけています。家族から居室の配置変えの要望があり応えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度ミーティングを行い運営に関して困っている事などの話し合いをする場としています。	毎月カンファレンスを兼ねたミーティング会議をフロアごとに持ち、話し合いをしています。管理者は職員と話す機会を持ち、意見や提案を受け入れる体制です。人事考課制度を導入しており年2回の個人面談では、研修希望や意見など話す機会を持っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度により面談の機会を設け勤務状況の把握や要望について情報を共有する機会をもつようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内外への研修参加実績が少ないので研修に参加する機会を確保していきたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横須賀市の連絡協議会に加入しているので、協議会が主催する集まりに参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用前のアセスメント時にご本人様やご家族に話を伺い要望などを聞き不安要素を減らしていけるようご本人様と関わりを持つように心がけていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用前のアセスメント時にご本人様とご家族様の話を伺い報告は都度詳細に伝えるよう心がけていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームだけでの対応で無く、なじみの関係を維持出来るよう努めていきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「出来る事・出来ない事」「出来そうなこと」を見極め支援させていただきます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活の様子を毎月送ったり電話で直接お話ししたり、面会時に報告するようにしています。行事にご家族に声を掛け参加して頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会希望の方にはあらかじめご家族に確認させて頂きどなたでも面会に来られるようにしています。	アセスメントや生活歴などからも馴染みの人や物の情報を把握するように努めています。入居前の近所の人の面会や、家族付き添いで馴染みの美容院へ出掛ける人もいます。墓参りや外泊は家族の協力を得て出来るように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コミュニケーションが計りやすい方や意思疎通が難しいけれど表情でコミュニケーションが計れる方がいるので1人1人を把握した関係の支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設へ転居された際は介護サマリー等必要に応じ連絡を取っていきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月モニタリングを実施。ケアカンファレンスでお1人様の状況を把握する機会を持っています。	日頃の表情や細かな仕草、会話を通して職員は入居者の思いや意向を汲み取り、気づいたことを毎月のカンファレンスで話し合い、共有しています。介護計画に反映し、全職員が周知しています。入居時のアセスメントや生活履歴も参考に、その人らしさの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントを確認し情報の共有をはかっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前のアセスメントを確認し情報の共有をはかりつつ生活の様子にも記録し内容に目を通すようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のモニタリングを実施しています。また月に1度カンファレンスも行い職員と話し合いをしています。	介護計画は毎月フロアごとにカンファレンスを開催し、全入居者の生活状況全体について話し合い、現状把握をしています。モニタリングは毎月実施し介護計画の見直しが必要な場合は家族とも相談して意向を把握し、反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を記録し何かあれば連絡ノートや支援経過に記入しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	今後どういったサービスが可能なのか話し合い対応を行っていきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域との関わりですが昨年町内会には加入しましたがなかなか出来ていない状態ですので今後の課題として行っていきます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時にご家族と話し合い主治医を決めていただいています。何か合った場合は24時間いつでも連絡が取れる体制にはなっています。	ほとんどの入居者が、かかりつけ医から協力医に変えて、内科月2回、歯科週1回、メンタル月1回の往診を受けています。訪問看護師は週1回ですが緊急時には治療や入院が出来るよう24時間の協力体制があります。外部受診の際は家族が付き添っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	何か合った場合には常に訪問看護師さんに連絡し相談しています。往診医と訪問看護師との連携も取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院・ご家族と連絡を取り情報の共有を図っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際にお話させていただいています。	入居契約時に、重度化した際のあり方を説明しています。重度化した場合、家族の意向を確認し、医療と連携して対応しています。看取り経験も2桁におよび、職員は内部研修を重ねて看取りに対する理解を深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎朝の朝礼時に心肺蘇生方の一連の流れを実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行うようにします。1年に1度は消防の方にも声をかけ参加して頂ける様にします。	火災を想定した避難訓練を実施したところです。2階入居者は内と外の階段を使用して避難しています。非常時の備蓄品リストは法人本部の管理でチェックリスト、品物の入れ替えを行っています。事業所内には水、食料その他がロッカーに保管されています。	火災や地震以外の夜間や水害を想定した訓練の実施と地域、特に町内会や消防署と話し合い、協力関係を構築することが期待されます。具体的な避難方法訓練を重ねることも期待されます

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お1人様の関わり方や言葉掛けについては皆同じ対応ではなくその方に合わせた対応を行うようにしています。	法人理念の「スマイルの誓い」では、入居者と約束の形で、敬う言葉遣いや言動を標榜しています。入居者への対応が気になる職員に対しては管理者が指導をしています。書類関係は鍵付き書庫に保管、トイレは扉にカーテンを付けプライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中でお客様の思いや表情を汲み取れるように努力していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お客様1人1人を把握し希望の活動が出来るよう1日の様子を把握するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみが保てるように声かけを行い必要であれば一部介助を行うようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の片付けに関しては職員と一緒に洗ったり、拭いたりしています。食事作りに関しても可能な限り出来るお客様にはお手伝いして頂くようにします。	食事は入居者の食べたい物、食べやすい物を3食職員が調理し、出来る人は食材の買い出しや皮むきなどの準備、食器洗い、片づけ、テーブル拭き、湯茶出しなどを行っています。誕生日での焼肉やクリスマスなどの行事食、月1回、ドライブ時にレストランで食事を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェック表を使い水分の把握に努め足りない方には個別での対応を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自分で行える方に関しては自分で行って頂き困難な方には介助し清潔の保持に努めています。また定期的に訪問歯科を利用させていただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表をつけトイレの間隔を見て必要な方には声かけし誘導を行っています。	入居者のほとんどは排泄の支援が必要です。3ヶ所のトイレの内、使用するトイレを決めている人もいます。チェック表で、個別の状態を把握し、声掛け、誘導しています。トイレに扉はありますが、外側にカーテンも取り付け、プライバシーに配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量や乳製品を摂っていただき便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ここの希望に応じ対応するように努めています。また季節により菖蒲湯やゆず湯も行っています。	浴室には床暖房設備があり、脱衣所を含め広さも十分あります。入浴は午前中の週2回となっています。車いす使用の人はシャワー浴ですが、浴槽に浸かりたい希望者には2人介助で対応しています。菖蒲湯や柚子湯で季節感を味わっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に合わせてお部屋で休んで頂いたりソファで寛いで頂いたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の目的や状況の変化に気をつけ日々の様子を観察し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ここの常態に合わせた役割や支援に努め外出や買い物に行ける様努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お客様の状態に合わせて一人ひとりの状態を把握し出かけられるよう支援していきます。地域の方たちの協力については行えていない部分があるので今後の課題として取り組んでいきます。	毎日、スーパーマーケットへの買い出しに入居者も散歩を兼ねて出掛けています。月に1回はドライブなどを企画して出掛けています。帰りにレストランで食事をする楽しみもあります。個別に、化粧品や菓子の買い物に出掛ける入居者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お客様の希望によりお金を持っていただき買い物する事もあります。その方に合わせた対応を行っていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お客様の要望により電話を掛けたり、手紙や年賀状を出す場合もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を味わって頂くようその季節に応じた飾り付けを行ったりしています。	館内は、落ち着いた色調で、中庭を取り囲む四角の建物です。中庭からの採光が良く、もちの木が植えられています。居間とキッチンが境がなく、中間の大きなテーブルは作業台兼用です。廊下の三隅にトイレ、ソファがあり居室には職員手作りの表札、居間の壁には、多くの行事の写真が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お客様が好きな時に好きなどころに行ける様にしています。廊下には椅子やソファが置いてあり個々に過ごせる様になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使用していたものを持ってきて頂きなるべく自宅と同じような環境になるように努めています。	鏡付き洗面台の備わった8帖の居室が、建物3方に3部屋の配置になっています。床はフローリングで、押し入れ、天袋と収納場所の多い落ち着いた居室です。毎日掃除し、温・湿度管理を行い、思い思いの家具を配置して、快適な環境です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人1人の出きる事を把握し家事や掃除、炊事などのお手伝いをいただいています。		

事業所名	スマイル住まいる横須賀大矢部
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は職員と一緒に考えたものが揚げられている。理念についての話し合いの場を作っていくようにする。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の小学校の運動会や卒業式に招待して頂き交流を図っています。昨年より町内会に加入しましたが町内の行事に参加実績がないので今後職員が参加していけるように取り組みを行うようにする。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今後の課題として運営推進会議の場を活用していきたいと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	前年度よりかは行えているがご家族への参加を募りご家族の声も聞き事業所を運営していきたいと思っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	相談ごとが有った場合は横須賀市の介護保険課の担当者に報告や相談を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる行為についてカンファレンスなどで話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	市が行う虐待防止の研修に参加をして行きます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度の理解については研修に参加し職員と学ぶ機会を作っていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項説明書等により御入居に関しての説明を行い、最後に何か質問等は無いか伺うようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に管理者やスタッフから近況を報告したりコミュニケーションを図り話を聞く機会を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度ミーティングを行い運営に関して困っている事などの話し合いをする場としています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度により面談の機会を設け勤務状況の把握や要望について情報を共有する機会をもつようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内外への研修参加実績が少ないので研修に参加する機会を確保していきたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横須賀市の連絡協議会に加入しているので、協議会が主催する集まりに参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用前のアセスメント時にご本人様やご家族に話を伺い要望などを聞き不安要素を減らしていけるようご本人様と関わりを持つように心がけていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用前のアセスメント時にご本人様とご家族様の話を伺い報告は都度詳細に伝えるよう心がけていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームだけでの対応で無く、なじみの関係を維持出来るよう努めていきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「出来る事・出来ない事」「出来そうなこと」を見極め支援させていただきます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活の様子を毎月送ったり電話で直接お話ししたり、面会時に報告するようにしています。行事にご家族に声を掛け参加して頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会希望の方にはあらかじめご家族に確認させて頂きどなたでも面会に来られるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コミュニケーションが計りやすい方や意思疎通が難しいけれど表情でコミュニケーションが計れる方がいいるので1人1人を把握した関係の支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設へ転居された際は介護サマリー等必要に応じ連絡を取っていきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月モニタリングを実施。ケアカンファレンスでお1人様の状況を把握する機会を持っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントを確認し情報の共有をはかっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前のアセスメントを確認し情報の共有をはかりつつ生活の様子にも記録し内容に目を通すようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のモニタリングを実施しています。また月に1度カンファレンスも行い職員と話し合いをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を記録し何かあれば連絡ノートや支援経過に記入しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	今後どういったサービスが可能なのか話し合い対応を行っていきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域との関わりですが昨年町内会には加入しましたがなかなか出来ていない状態ですので今後の課題として行っていきます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時にご家族と話し合い主治医を決めていただいています。何か合った場合は24時間いつでも連絡が取れる体制にはなっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	何か合った場合には常に訪問看護師さんに連絡し相談しています。往診医と訪問看護師との連携も取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院・ご家族と連絡を取り情報の共有を図っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際にお話させていただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎朝の朝礼時に心肺蘇生方の一連の流れを実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行うようにします。1年に1度は消防の方にも声をかけ参加して頂ける様にします。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お1人様の関わり方や言葉掛けについては皆同じ対応ではなくその方に合わせた対応を行うようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中でお客様の思いや表情を汲み取れるように努力していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お客様1人1人を把握し希望の活動が出来るよう1日の様子を把握するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみが保てるように声かけを行い必要であれば一部介助を行うようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の片付けに関してはテーブルを拭いていただいたり出来ることを行って頂くようにしています。食事作りに関しても可能な限りでの対応としています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェック表を使い水分の把握に努め足りない方には個別での対応を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自分で行える方に関しては自分で行って頂き困難な方には介助し清潔の保持に努めています。また定期的に訪問歯科を利用させていただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表をつけトイレの間隔を見て必要な方には声かけし誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量や乳製品を摂っていただき便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ここの希望に応じ対応するように努めています。また季節により菖蒲湯やゆず湯も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に合わせてお部屋で休んで頂いたりソファで寛いで頂いたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の目的や状況の変化に気をつけ日々の様子を観察し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ここの常態に合わせた役割や支援に努め外出や買い物に行ける様努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お客様の状態に合わせて一人ひとりの状態を把握し出かけられるよう支援していきます。地域の方たちの協力については行えていない部分があるので今後の課題として取り組んでいきます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お客様の希望によりお金を持っていただき買い物する事もあります。その方に合わせた対応を行っていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お客様の要望により電話を掛けたり、手紙や年賀状を出す場合もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を味わって頂くようその季節に応じた飾り付けを行ったりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お客様が好きな時に好きなところに行ける様にしています。廊下には椅子やソファが置いてあり個々に過ごせる様になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使用していたものを持ってきて頂きなるべく自宅と同じような環境になるように努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人1人の出気る事を把握し家事や掃除、炊事などのお手伝いをしています。		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 スマイル住まいる横須賀大矢部

作成日： 平成30年6月24日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の目的を明確に、地域包括支援センター職員、町内会代表に会議への協力をしてもらえるように、日程調整の工夫や、開催案内の連絡、声掛けの継続。	地域包括支援センター職員や、町内会長への御挨拶、参加の御案内を行う。開催日程を年度計画のなかに組み込み、前もってお知らせをさせて頂く。	平成30年度は運営推進会議の開催月を、基本的に奇数月の第四週の月木以外とし、開催時に各関係者に希望を伺い相談をする。包括職員や町内会長には、電話連絡や、直接ご挨拶に伺いました。また不参加であっても報告書を提出し、連携や協力体制を求めていく。	6ヶ月
2	13	火災や、地震以外の夜間や水害を想定下訓練の実施、町内会や消防署と話し合い、協力関係を構築すること。具体的な避難方法訓練の継続。	年2回の避難訓練に、一回は消防署職員の立会いを依頼し、意見や有効的な避難方法を指導頂く。	次回、訓練は9月を予定しているので、消防署へ依頼予定。法人内の災害時マニュアルを配布し、職員への周知を行った。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月